

第2回国際宇宙探査フォーラム
(2018年3月3日 於：日本国東京)

共同声明

宇宙探査における国際協力・国際協調を進めるため、日本国東京で開催された第2回国際宇宙探査フォーラム（ISEF）に40以上の国と国際機関から代表者が参加した。

同会合に先立って、宇宙探査における民間の関与の可能性と在り方について議論する産業界向け行事と、次世代の発想や関心を喚起するための若手向け行事が開催された。同会合では、各国の代表者により終日にわたる濃密な議論が行われ、以下の重要認識を結論とするに至った。

(宇宙探査の重要性と人類への利益)

1. ISEF参加者は、宇宙探査が、新たなフロンティアを探究し、宇宙空間における人間の活動領域を拡大する重要な挑戦であることを確認した。また、宇宙探査が、人類の利益と根源的な問いに対する答えを探求する好奇心を満たす、新しい知識と経験を蓄積するものであることを確認した。更に、太陽系の探査が共通の挑戦であることも確認した。

(宇宙探査への国家投資の理由と得られる価値)

2. ISEF参加者は、地球上の全市民の経済成長と社会福祉に貢献するものとして、宇宙探査に対する投資の重要性を確認した。また、宇宙探査への投資が、将来の科学的発見の促進、先端技術の開発と応用を通じた宇宙空間及び地球上におけるグローバルな挑戦への対応、挑戦的かつ平和的な目標の共有によるグローバルパートナーシップの創造、協力による、あるいは個別の取組を通じた若い世代を中心とした社会の啓発、そして、経済発展の促進と新たなビジネスの機会をもたらすことを確認した。

(国際協力の意義と協力形態)

3. ISEF参加者は、持続可能な有人及び無人の飛行プログラムを通じた将来の宇宙探査が、非常に多くの活動から構成されるものであり、活動の大小や目的地に関わらず、国際協力によって強化されるとともに共通のビジョンと目標のもとで相乗効果を発揮し、これにより効果的かつ効率的な宇宙探査活動が促進されるものであることを認識した。

(国際宇宙探査の新規参加者数の増加と革新的パートナーシップの可能性)

4. ISEF 参加者は、世界のあらゆる地域において、公（政府）及び民間（商業ベースや非政府）の両セクターによる多大な貢献が認められ、宇宙先進国のみならず宇宙探査・宇宙利用が緒についたばかりの国にも広がりが見られる、探査を巡る新たな情勢を歓迎した。この認識に基づき、探査に参画する者による革新的なパートナーシップの機会が広くもたらされることを奨励した。また、本会合の成果が、国連による UNISPACE+50 の（7つの主要優先事項の一つとして設立されている）「探査とイノベーションのアクションチーム」の活動と相補的であるよう期待が示された。

(国際的な共通ビジョンと目標)

5. ISEF 参加者は、地球低軌道から月・火星、そしてその先まで、太陽系のより深いところへの探査活動の拡大は、国際コミュニティで広く共有されている目標であることを確認した。参加者は、深宇宙に至る一つ一つのステップの最大限の活用により、無人のみでなく有人による探査を持続可能な形で構築することの重要性を認識した。また、国際宇宙ステーション(ISS)が、科学研究や技術実証、さらに宇宙探査に向けた実験の場であり、また、平和目的の国際協力プロジェクトとして機能していることを認識した。更に参加者は、2018年1月に公表された、国際宇宙探査協働グループ(ISECG)に参加する宇宙機関による「国際宇宙探査ロードマップ」に留意した。そして、地球低軌道やさらに遠方への宇宙探査における国際協力の重要性を認識した。ISEF 参加者は、個別あるいは全体の探査目標を追求する上で、将来世代による最大の利益と利用のため、宇宙環境の保存・保護に取り組むことに同意した。

(宇宙探査の原則と ISEF 運営規約の支持)

6. ISEF 参加者は、持続可能な国際宇宙探査への支持を前進させるための閣僚級のフォーラムとして、ISEF の継続を歓迎した。参加国及び国際機関は、国際協力や、人類に利益をもたらす長期的な宇宙探査の取組を推進するための、各国政府間対話の基盤として、ISEF 運営規約を認識し、国際宇宙探査の原則を歓迎した。